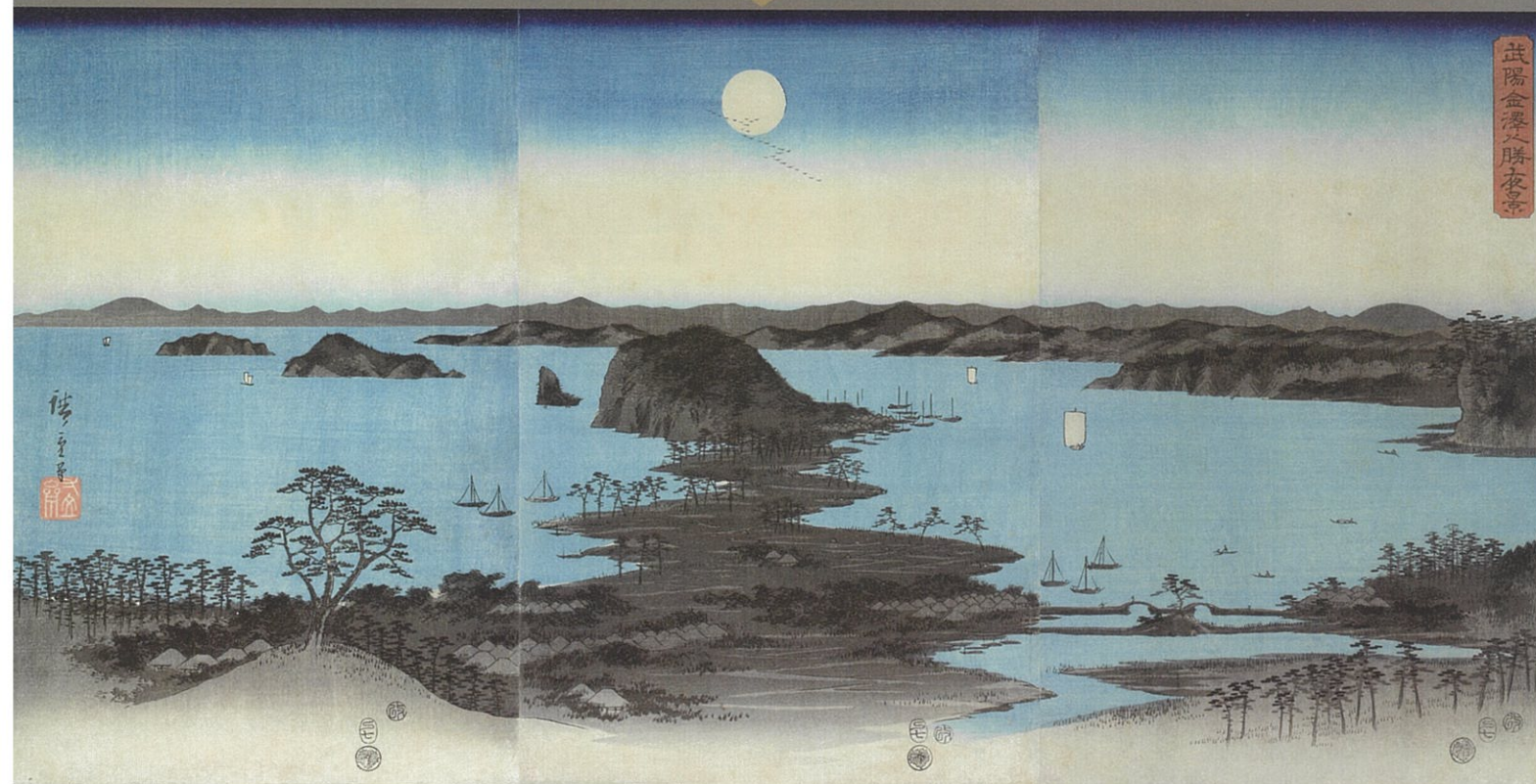


秋季特別企画展

広重翁

しょううつし 晩年の画業と「写真」

武陽金沢八勝夜景



歌川広重「武陽金沢八勝夜景」(部分) 当館蔵 (令和4年度新規収蔵品)

会期 令和5年(2023)

10.5(木) ▶ 12.10(日) 前期:10.5(木)-11.5(日) 後期:11.9(木)-12.10(日)

中山道広重美術館
Hiroshige Museum of Art, Ena

【Exhibition Date】 October 5th(Thu) - December 10th (Sun)

Period one : October 5th(Thu) - November 5th (Sun) Period two : November 9th(Thu) - December 10th (Sun)

しょううつし
写真をなして是に筆意を
すなわち
加ふる時は則画なり

【中山道広重美術館スポンサー制度協賛企業】
○毎週水曜日は観覧無料、フリーウエズデー
(スポンサー) (株) エナ重機、ナカヤマ・グループ、
(株) デジタ
●毎週金曜日は観覧無料、フリーフライデー
(スポンサー) (株) 銀の森コーポレーション、
楽園住宅・カネコ・木KeyPoint、
(株) サラダコスモ ちこり村

写真しょううつしをなして是こゝろに筆意ひつしを加ふる時は則画すなわちなり

〈展覧会概要〉

江戸時代後期を代表する浮世絵風景画の名手、歌川広重（一七九七～一八五八）。天保年間（一八三〇～四四）に「東海道五拾三次之内」（通称、保永堂版）や「木曾海道六拾九次之内」を手掛けた後、改革による出版統制を乗り越えた広重は、浮世絵出版界の再興隆と共に数多くの作品を世に送り出しました。今なお世代や国を越えて多くの人々を魅了してやまない情景は、どのように生み出されたのでしょうか。

五十代を迎えた嘉永年間（一八四八～五四）、広重は絵を習う者に向けた版本である絵手本を複数冊手掛けています。そのうちの二冊に、草花や魚介類を取り上げ、写実的な「写真」^{しょううつし}と簡略化した「草筆」という二様の描き方を図解した『絵本手引草 初編』があります。冒頭では、広重の自序として「画は物のかたちを本とすなれば写真しょううつしをなして是こゝろに筆意ひつしを加ふる時は則画すなわちなり」と説いており、対象の真を写し取る「写真」を基本とし、そこへ運筆の趣「筆意」を加えることで独自の画風に昇華していたことが分かります。本書の最後には、「風景をえかくも又割かたの心得あり」と続編の制作が宣伝されていますが、残念ながら出版は確認されていません。しかし、風景を描く上でも自身の画法を確立していたことがうかがえます。

「写真」を重んじる広重は、多忙な日々のさなか甲州や房総へ足を運んでおり、こうした旅の経験やスケッチを基に各地の名所風景を手掛けることもありました。一方で、実際には訪れていない場所を描いていることも、しばしば指摘されています。広重は、自身のスケッチや先行作品の図柄をそのまま引用するのではなく、多彩な筆致や構図を大小さまざまな判型に合わせて駆使し、表現意図に即した景観へ再構成しました。調和のとれた配色で摺り上げられた叙情豊かな風景には、旅を愛した広重自身の情感が込められています。

本展では、嘉永元年（一八四八）から数え六十二歳で没する安政五年（一八五八）までの約十年間を中心に、晩年の代表作を通して広重風景画の核心に迫ります。風景画の第一人者として年功を積んだ広重翁による、老成円熟した筆遣いや色使いの妙趣をお楽しみください。

晩年の画業と「写真」^{しょううつし}

会期 令和5年(2023)

10.5(木) ▶ 12.10(日) 前期: 10.5(木)-11.5(日) 後期: 11.9(木)-12.10(日)

観覧料 大人/820円(660円) ()内は20名以上の団体料金
▲18歳以下無料、障がい者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名は無料。
開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日 月曜日(ただし、10.9(月・祝)は開館)、10.10(火)、11.7(火)～8(水)、11.24(金)
主催 恵那市、恵那市教育委員会、(公財)中山道広重美術館

- 【関連イベント】
- 学芸員による作品ガイド
日時: 10.15(日)、11.19(日) 各日午前10時30分～(40分程度)
場所: 展示室1、2(1、2F)
 - 解説ボランティア幽遊会による作品ガイド
日時: 随時(要事前予約)

〈図版〉
全て歌川広重(当館蔵) 1.「雪月花の内 月の夕部」 2.「浮世風俗たはけいろは 其二」 3.「(国尽張交図会) 越中 越後 佐渡」 4.「不二三十六景 甲斐大月原」 5.『富士見百図』『甲斐大月の原』 6.「富士三十六景 甲斐大月の原」 7.「東海道 廿九 五十三次 岡崎」 8.「五十三次名所図会 廿九 岡崎 矢はき川やはきはし」 9.「武陽金沢八勝夜景」 10.「山海見立相撲 讚岐象頭山」 11.「六十余州名所図会 讚岐 象頭山遠望」 12.「名所江戸百景 亀戸梅屋舗」 13.「名所江戸百景 深川万年橋」



東海道

8. 7.



富士

6. 5. 4.

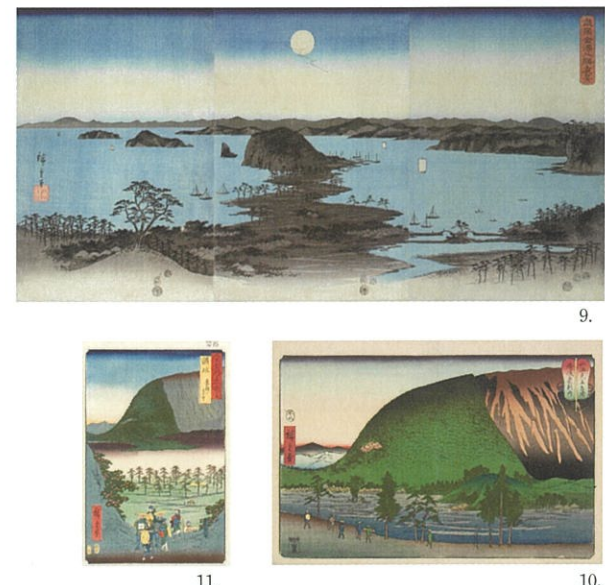
構図の妙

広重は、判型の大きさや形に合わせて、俯瞰視や水平視などの視点および構図を使い分けました。最晩年には、近接拡大したモチーフ越しに遠景をのぞき見せる構図、通称「近像型構図」を用い、臨場感あふれる情景を描き出しています。



江戸

13. 12.



9. 11. 10.

諸国



モチーフを簡略化する描法は、戯画や風景画の点景人物にも生かされています。



歌川広重 『略画光琳風立斎百図 初編』

「草筆」よりも簡略化された「略画」によって、「不二川」(右上)などのモチーフが描かれています。

歌川広重 『絵本手引草 初編』

右頁には広重による序文、左頁には「写真」「草筆」「極草画」による福寿草の描き分けが掲載されています。



その他の出品絵手本 『草筆画譜』初・三編、『浮世画譜 三編』 (ともに個人蔵)

Museum Shop News

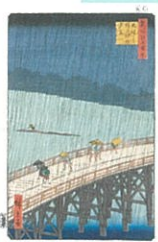
ミュージアムショップからのお知らせ

フェリシモ「ミュージアム部」商品のご紹介

ミュージアムショップではただ今、フェリシモ「ミュージアム部」より、まるで美術作品を持ち歩いているような気分が味わえる「A4ファイルポーチ」を販売中。歌川広重が手掛けた作品の中でも傑作と名高い「名所江戸百景 大はしあたけの夕立」をあしらった、紙のような風合いのポーチです。仕切りに便利なポケットが一つとペンホルダーが付いています。A4クリアファイルがぴったりと収まるサイズです。ポーチに使用されている図版とは異なりますが、当館所蔵の同作品は、秋季特別企画展「広重翁一晩年の画業と「写真」」前期日程で出品予定です。展覧会とあわせてお楽しみください。



↑ A4ファイルポーチ
〈大はしあたけの夕立〉
3,520円(税込)



歌川広重「名所江戸百景 大はしあたけの夕立」
(当館蔵)

さらに、フェリシモ「ミュージアム部」と当館のコラボにより実現した広重おじさんグッズ「広重おじさんと歩こう！タビビトソックス」と「広重おじさんランプカード〈東海道五十三次〉」も好評販売中です。ぜひこの機会にどうぞ。



ミュージアム部™



中山道広重美術館
Hiroshige Museum of Art, Ena

広重おじさん



↑上: 広重おじさんと歩こう！
タビビトソックス
4色(23~25/25~27cm)
各1,650円(税込)

←左: 広重おじさんランプ
カード〈東海道五十三次〉
1,100円(税込)



中山道広重美術館

Hiroshige Museum of Art, Ena

〒509-7201 岐阜県恵那市大井町176-1
TEL(0573)20-0522 FAX(0573)25-0322
<https://hiroshige-ena.jp>

*JR中央線恵那駅から直進徒歩約5分
*中央自動車道恵那インターから約5分



公式ホームページ



Webミュージアムショップ



連続講座秋季日程

2023.10-12

令和5年度連続講座秋季日程がはじまります

「江戸庶民の遊びと愉しみ」

太平の世が訪れ、多種多様な文化が花開いた江戸時代。歌舞伎、相撲、見世物などの大規模な興行や、狂歌、盆栽、愛猫といったグループまたは個人での楽しみは、庶民の日常生活に彩りを添えました。これらは浮世絵出版と密接に関わっており、現代の大衆文化にも継承されています。令和5年度は、浮世絵鑑賞の素地となる江戸文化への理解を深めるべく、江戸庶民の趣味や娯楽を取り上げます。

秋季講座

〈第4回〉10.7(土)

「江戸から地方へ、狂歌の大流行」
小林 ふみ子氏 (法政大学文学部教授)

〈第5回〉11.11(土)

「浮世絵で楽しむ江戸の盆栽文化」
田口 文哉氏 (さいたま市大宮盆栽美術館学芸員)

〈第6回〉12.9(土)

「江戸文化にみる猫と人」
津田 卓子氏 (名古屋博物館学芸員)

※日程・内容等を変更する場合がございます。

●場所: 中山道広重美術館講座室(3F)

●時間: 各回午後1時30分~3時30分(質疑応答を含む)(予定)

※当講座は基本的に6回の受講を申し込まれた方が対象となりますが、当日空席が発生した場合のみ、1回500円(観覧料別)で単独受講も受け付けます。詳しくはお問い合わせください。

展覧会案内

2023.12-24.3

企画展「ぐるり上方名所めぐり」12.14-令和6年1.21



徳川の世となり、政治の中心は江戸へと移ったものの、依然文化や経済の中心地としてにぎわった上方。京・大坂の有名スポットはもちろん、瀟湘八景になぞらえて設定された近江国(現・滋賀県)の「近江八景」など、見どころ満載の上方名所をご案内します。

歌川広重「近江八景之内 石山秋月」

企画展「吉村コレクションー日常を彩る美ー」1.25-2.25



吉村コレクションは、恵那市出身の故・吉村トシ子氏の旧蔵品と、寄付金により購入された浮世絵とで構成されています。本展では、その中から選りすぐりの名品をご紹介します。氏が日常的に愛でた作品をお楽しみください。

マリー・ローランサン「少女」

企画展「お江戸浮世絵プロデューサー」2.29-3.31



浮世絵版画は、絵師、彫師、摺師の分業制からなる商業出版物です。その企画から販売までの統括を行ったのは、浮世絵制作のプロデューサーともいえる版元でした。本展では、浮世絵の発展を支えた版元たちに注目し、江戸の出版事情を探ります。

梅素亭玄魚「一立斎広重 一世一代 江戸百景」